

## COMMENT

梁 春 香 (東洋大学)

北朝鮮というと、よく「近くて、遠い国だ」と言われている。つまり物理的に遠いのではなくて、お互いに知らないので、心理的に遠くなっているといえよう。このような「距離」を縮むために、お互いに知ることが第一歩であるが、この学会で北朝鮮の観光について研究課題としてとりあげることは北朝鮮を知るには意義が大きいと思う。

佐々木先生の研究発表を通して、まず北朝鮮の観光資源を知ることができた。ご報告の内容をまとめると、北朝鮮の観光資源について、①地域性がある、②特色がある、③遺跡の話題性がある、という3点である。そして、この豊かな観光資源が多くの場合、観光対象として、活用されていないのが現状だというご指摘もあった。

その地域性というと、地理的にユーラシア大陸の「乳房」とされる半島に位置し、東西文化の接点にあるとも言える。その意味で北朝鮮の観光資源は大陸の強い影響を受けた半島という地域性と

東洋文化といった特色を持ち、かつ多くの史跡が残っている。観光資源は自然と人文に分類することができる。北朝鮮のそのどれも豊で、観光対象としての活用は可能で、観光対象の魅力も潜んでいる。とくに史跡の観光資源は文化価値の高いもので観光対象として高く評価されている。

なお、観光資源に対して評価を行なう場合、評価のアセスメントが必要であるが、北朝鮮の観光資源の評価となると、どのような基準でもって評価するかはまず考える必要があると思う。また国内観光、国際観光の観光対象になるかによって、その評価基準が違ってくる。いずれにせよ、観光資源を評価する場合は、国際社会で一般的に通用される評価基準で行なうべきであるが、北朝鮮の現状からいえば、現在尚早かも知れない。したがって北朝鮮の観光資源に対して、どんな基準でどのように評価が行なわれているかはまず大きな課題ではないかと思う。

## The Progress of *Mt. Geumgangsán* Tour Special Zone and Its Evaluation

SHIM Ui Sup (Myongji University, KOREA)

*The Geumgangsán* [*The Geumgangsán Diamond Mountain, or Mt. Geumgangsán*] tour business as well as North-South Korean economic cooperation is very hard situation in this times. The total number of visitors for *the Geumgangsán* during the last five years reached at 525,066 persons which is much smaller than expected at the beginning stage. The business

regarded not only just as the simple sightseeing but also as a historical event for the Korean reunification process. At the beginning stage it was evaluated as a successful output of the Kim Dae-jung government's sunshine policy, but now it is blamed as a dog in the manger.

The number of tourists for *the Geumgangsán* is getting smaller and smaller month by month in

last year. Thus the managing company, Hyundai-Asan, is in very hard time. In some sense, the Hyundai Asan Co. initiated the lump sum investment for infrastructure development for the tourism as well as reunification which should be done by the government as one of the backbone projects under the special environment.

Therefore, in this difficult situation of private base the Korean government should care about to continue *the Geumgangsan* peace process by utilizing the possible policy tools.

*The Geumgangsan* project as mentioned before, in real sense, is a part of the process of Korea reunification. *The Geumgangsan* has been one of the important meeting points for the North-South dialogue since the sunshine policy. It is widely agreed that the major effects of *the Geumgangsan* project were to help to continue the North-South dialogue and to induce and create the stable and favorable foreign

investment environment. It must be emphasized that *the Geumgangsan* business is not regarded just as a simple profit-seeking private business. It should be regarded as a grand strategy for the Korea reunification process.

Korean government must cooperate with North Korea for the road tour to link and stimulate *the Geumgangsan* Tour Special Zone in real sense. It must be emphasized that the benefits of Geumgangsan project would be greater than the cost when the business stopped in economic and political sense. It is very right time that the Korean NGOs are initiate the national movement to share Hyundai-Asan company's stock to normalize its management.

*The Geumgangsan* project should be operated on the bases of trans-interest group, trans-government, trans-generation and trans-national for the peace-keeping and the grand Korean reunification process.

---

## COMMENT

---

沈先生のご報告を伺いまして「金剛山観光協力」事業について理解を深めることができました。南北朝鮮に伸しかかっている政権間の利害対立をくくり抜けながら、対北朝鮮援助NGO活動を推進して来られた点は、高く評価すべきではないかと思われまます。ただ、以下では韓国の対北朝鮮政策の変化とこの変化にともなうNGO活動の位置づけについてご質問申し上げます。

まず第一点目、「金剛山観光協力」事業は、あくまでも金大中政権の太陽政策の一環であり、金正日独裁政権に直接資金支援を行なうこと自体が1994年の米・北朝鮮枠組み合意に反することになりかねないわけで、金正日総書記のメンツを崩さずにして、同時に国際的批判を回避できる迂回的

李 泰 王 (愛知大学)

な手段であったことが分かります。まさにこのような協力事業と引き換えにして実施されたのが2000年6月の南北首脳会談であり、この場では、北朝鮮の人権問題について一切の言及がありませんでした。金大中氏は、長い間、韓国社会の民主化、つまり独裁政権の打倒運動に投身してきた方であったにもかかわらず、なぜ北朝鮮の非民主的な実態を容認したのでしょうか。太陽政策＝サン・シャイン政策が不正送金の発覚などで透明さを欠いていたことが判明した現在の段階で、この「金剛山観光協力」事業に関心を引き寄せようとする真の理由についてお聞きしたいと思います。

第二点目、今年2月に誕生した盧武鉉（ノムヒョン）政権は、どのような対北朝鮮政策を採って

いくのか、金大中氏の太陽政策を堅持していくかどうかについてお伺いします。もし違った政策を展開していくなら、当然、「金剛山観光協力」事業が見直しに迫られることになるし、そのためにも、新しい南北間の政治協商が水面下で行われていても可笑しくない状況かと考えられます。言い換えれば、この事業が、盧武鉉大統領の政策とどれほど合致したものなのか、そうでなければ、政策と離反した民間事業になりつつ、南北の橋かけ

ところか、混乱を惹き起こすことさえあるのではないかと考えられます。なお、経済民主化のための財閥解体の声さえ出ているなかで、韓国の一部のNGOグループが、「金剛山観光協力」事業に関わった特定の財閥系企業を擁護したりしてまで北朝鮮平和ムードを造成しようとする背景についてお答えください。

以上のコメントですが、沈先生、どうぞ宜しくお願いします。

---

## 北朝鮮経済の現状評価と日中韓3国の課題

大西 広 (京都大学)

### 歴史的イベントとしての韓国の反米化

日本と同じく対米敗戦国として長期に「親米国家」であったドイツがフランスとともにイラク戦争に反対し「反米化」した。この世界史的意味を同様に持つものが韓国の「反米化」である。盧大統領がいかに対米交渉で譲歩をし、「反米」の外相が更迭されても韓国世論の基本は変化しない。むしろ、この韓国「反米化」の基本的な理由がドイツのそれと同じところにあると考えることが我々には必要である。

というのは、ドイツの「反米化」が東西冷戦の崩壊で「ソ連」という敵を喪失したこと、いいかえれば敵の喪失でアメリカとの同盟が不要になったことを背景としていると理解できるからである。このように理解できるとすれば、韓半島での南北首脳会談は「北」が敵でなくなったことによって、韓国はもはや本質的にアメリカとの同盟を不要にするようになった、少なくとも韓国の若者の意識の上ではそうなったのだと理解できる。つまり、ここでは事実上、「北」はもはや「敵国」

ではなくなり、よってその敵対国=アメリカこそが逆に「敵国」となった。この過程で、韓国の「民族ナショナリズム」が大きな役割を果たしたことは言うまでもない。韓国にとっての「民族ナショナリズム」は同じ民族の「国家」、本来統一が果たされるべき「国家」としての「北」との友好を促進し、よって上記の国民感情を強める作用を持っているからである。アジア危機を急速に乗りきった事、オリンピックやワールド・カップでの善戦がそれを更に刺激している。

### 北東アジア一体化におけるキー・イシューとしての半島問題

このように考えると、アメリカの世界支配（正確には西側支配）にとって東西の分断=冷戦がいかに重要であったかを知ることができるが、それはとりも直さず、北東アジアの西側同盟=日米韓同盟にとって半島の分断が如何に重要であったかを意味する。結局、この意味で、北朝鮮に対してどのような態度をとるかが「アメリカ重視外交」か「北東アジア重視外交」かの違いを決める。日